

2023.9.29 No.2

新潟の土地改良



みどり
水土里ネット

未来の「水」「土」「里」を
創造する

新潟県土地改良
事業団体連合会

Vol.620

令和5年度 第2号

Contents

要請活動	1	令和5年度 新潟県農村振興技術研修会／	
農業農村整備の集い	2	令和5年度 県農地部・県土連 意見交換会	8
新潟セミナー「スマート農業の推進と基盤整備のあり方」...	3	令和5年度 新潟県土地改良事業団体連合会 技術部研修会	
令和5年度 ほ場整備地区園芸産地化現地研修会	4	ならびに換地部研修会	9
土地改良区男女共同参画推進に関する事例発表会	5	連合会日誌／表紙写真紹介	10
令和5年度 新潟県経営体育成農地集積促進協議会通常総会 ...	7		

要請活動

去る6月16日、北陸四県土地改良事業団体連合会協議会は、農林水産省、財務省、自民党本部に対して、令和6年度予算確保に向けた要請活動を行いました。

農林水産省では、横山事務次官、財務省では、鈴木財務大臣、自民党本部では、茂木幹事長、二階国土強靱化推進本部長へ要望書を手交し、各県の事業推進や農村振興、課題等の状況と要望を伝えました。

要請のポイント

- 土地改良事業の計画的・安定的な推進のため、現場のニーズに応えられるよう、必要な予算を確保すること。特に、防災・減災国土強靱化対策のための5か年加速化対策については、令和5年度以降も令和4年度と同様に十分な予算を確保すること。
- 農業競争力強化のため、担い手への農地集積・集約化や農業の高付加価値化、農地の大区画化、汎用化、スマート農業の導入を促す農地整備を引き続き推進すること。
- 農村地域においても国土強靱化を図るため、老朽化した農業水利施設の更新・長寿命化や、豪雨・地震対策等を引き続き推進すること。



＜ 北陸四県土連の会長らが、
横山事務次官へ要望書を手交 ＞



＜ 北陸四県土連の会長らが、
茂木幹事長へ要望書を手交 ＞



＜ 北陸四県土連の会長らが、
鈴木財務大臣へ要望書を手交 ＞



＜ 北陸四県を代表し、富山県土連会長が、
二階国土強靱化推進本部長へ要望書を手交 ＞

農業農村整備の集い

去る6月15日、シェーンバッハ・サボー（東京都）において、全国土地改良事業団体連合会・都道府県土地改良事業団体連合会の共催による農業農村整備の集いが開催され、全国から農業農村整備に携わる関係者約1200人が参加しました。

開会にあたり、二階全国土地改良事業団体連合会会長から「闘う土地改良はこれからも限りなく続く。一致団結して日本の農業の発展に向け、頑張っていこう。また、土地改良における男女共同参画は、未来に向けた土地改良団体の強化のためには必要不可欠であることから、女性理事の占める割合を10%以上にするという目標に向け、しっかりと取り組んでいただきたい。」と挨拶がありました。

次に、来賓の勝俣農林水産副大臣、高市経済安全保障担当・内閣府特命担当大臣、森山自民党TPP・日EU・日米TAG等経済協定対策本部長より祝辞が述べられました。

続いて、杉野千葉県土地改良事業団体連合会副会長から要請書案文が朗読され、満場一致で採択された後、星野全国土地改良事業団体連合会理事より男女共同参画に関する事例発表が行われ、その後、宮崎雅夫都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問より情勢報告が行われました。

最後に、竹内成子福井県土地改良事業団体連合会理事・ふくい水土里ネット女性の会会長の発声でガンバロウ三唱が行われ、集いは盛会裏に終了しました。

要請書（抜粋）

- 一 土地改良事業の計画的な推進のため、必要な予算を安定的に確保すること。
- 二 食料・農業・農村基本法の見直しに当たっては、次の観点に留意して必要な規定を盛り込むとともに、関連する制度や事業・支援の一層の充実を図ること。
- 三 大規模災害からの復旧・復興や再度災害防止の取組を早急に進めること。また、災害対応のデジタル化など、事務手続の効率化等に向けた取組を推進すること。
- 四 農業の競争力強化のため、農地の集積・集約化、米から高収益作物への転換、スマート農業の導入を促す農地整備を引き続き推進すること。
- 五 農村地域の国土強靱化のため、老朽化した農業水利施設の更新・長寿命化や、豪雨・地震対策等を引き続き推進するとともに、燃料価格や電力料金が高騰する状況下においても安定的な用水供給等が可能となるよう対策を推進すること。



<二階全土連会長の開会挨拶>



<会場の様子>

新潟セミナー「スマート農業の推進と基盤整備のあり方」

去る6月8日、県土連ビル(新潟市)において、一般財団法人日本水土総合研究所の主催による新潟セミナー「スマート農業の推進と基盤整備のあり方」が開催されました。

このセミナーは、国、県、土地改良区、民間企業の農業関係者を対象に、今後の地域農業の振興に資する農業農村整備・農村振興に関する情報の提供を目的としたもので、会場とオンライン含めて約250名が参加しました。

石川総括技術監の挨拶で開会し、スマート農業や基盤整備に関する4つの講義が行われました。

セミナーに参加した当会の職員からは「スマート農業の導入事例を多く聞くことができ、有用性を再認識することと同時に課題も多く残っていると感じた。導入支援のメニューもしっかりと把握しながら、スマート農業の導入に資する基盤整備の知識を深めていきたい。」といった感想が聞かれるなど有意義なセミナーとなりました。



< 会場の様子 >

セミナー概要

内 容	説 明 者
開会挨拶	(一財)日本水土総合研究所 総括技術監 石川 善成
スマート農業技術を活用した持続可能な営農技術体系の実証(十日町市) ～建設会社が取り組む棚田再生の視点～	鹿島建設(株)技術研究所 グループ長 山田 順之
(講義内容)・分散した小規模ほ場における水位確認などの課題に対する水温・水位監視システム・自動給水装置の導入事例の紹介 ・同一ほ場内でも土質、保水性など生育条件が異なるといった課題に対するドローンによる葉色診断の導入事例の紹介	
大規模水田輪作(水田・大豆)における園芸作物(枝豆)導入に向けた スマート農業一貫体制の実証	(株)白銀カルチャー 代表取締役 荒木 康男
(講義内容)・「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」の採択とその結果について ・高い導入経費の回収や通信環境の整備といったスマート農業の現状の課題について	
新潟県におけるスマート農業の推進について	新潟県農林水産部農業総務課 政策室長 瀧澤 明洋
(講義内容)・新潟米生産スマート化推進事業、園芸スマート農業推進事業など、農林水産業のDXに向けたこれまでの県の取り組み ・新潟米スマート生産加速化支援事業、園芸スマート実装支援など、農林水産業のDXに向けたこれからの県の取り組み	
スマート農業の推進と基盤整備のあり方	(一財)日本水土総合研究所 企画研究部長 葭井 功治
(講義内容)・自動運転トラクタなどの導入による労働時間の削減など、スマート農業実証プロジェクト(水田作)の成果について ・大区画化や畦畔、法面、地下かんがいの整備といったスマート農業の効果を高めるための基盤整備のポイント	



< 石川総括技術監 >



< 山田グループ長 >



< 荒木代表取締役 >

令和5年度 ほ場整備地区園芸産地化現地研修会

去る7月11日、魚沼市小出郷文化会館小ホール(魚沼市)において、新潟県主催による令和5年度ほ場整備地区園芸産地化現地研修会が開催されました。

この研修会は、市町村、土地改良区、ほ場整備地区農業者などを対象に、園芸品目の導入について理解を深めることを目的としており、会場には約200人が参加しました。

魚沼地域振興局の大竹局長の挨拶で開会し、人材確保や園芸導入などに関する2つの講義が行われたほか、ほ場整備を契機に設立された2つの農業法人の代表が参加したパネルディスカッション、なすやふきのとうを栽培している園芸導入のモデルほ場の見学行われました。

参加者からは、「パネルディスカッションでは、園芸導入までの苦労や工夫など生産者のありのままの意見を聞くことができ、大変有意義だった。」といった意見が聞かれ、園芸導入や拡大に向け、生産者の現状を知る貴重な研修会となりました。



＜桜田農産のふきのとうのモデルほ場＞

研修概要

内 容	説 明 者
開会挨拶	魚沼地域振興局 局 長 大竹 真理夫
ほ場整備を契機とした農業法人の設立と人材確保の取組について	新潟県農地部農地整備課 副参事 長谷川 和徳
(講義内容) ・新潟県の農業法人数の推移など農業構造の急速な変化について ・経営体質の強化や就業環境整備といった求職者に選ばれる法人について	
パネルディスカッション (テーマ: ほ場整備を契機に設立した農業法人の人材確保と園芸作物の取組について)	農事組合法人桜田農産 代表理事 大 平 二 郎 (パネラー) 農事組合法人一日市ひかり農産 代表理事 桜 井 元 雄 (パネラー)
(人材確保に向けた取組み) ・離職を防ぐため、園芸導入による冬季の収入確保を図ることにより、安定した雇用環境を実現した。(桜田農産) ・就職希望者に選ばれる会社を目指し、月1回程度、JAや税理士を講師に招き、働きやすい環境を構築するための勉強会を開催している。法人の役員も含めて勉強会を継続した結果、雇用の増加に繋がっている。(一日市ひかり農産) (園芸品目の選定理由や収益について) ・冬季収入確保のため、「ふきのとう」を導入した。管理に手間がかかるため、人材を確保し、収益向上に繋がりたい。(桜田農産) ・現状では、収益確保に至っておらず、園芸に携わる方の人件費を賄う程度に留まっているが、改善の余地はあると思う。収益向上に繋がるよう頑張っていきたい。(一日市ひかり農産)	
モデルほ場の園芸作物の栽培状況について	魚沼地域振興局農業振興部 専門普及指導員 野 本 英 司
(講義内容) ・排水対策や病害虫防除といった栽培のポイントを示した加工用トマト栽培の概略 ・高品質高収量確保のためのかんがい排水や施肥管理といった栽培のポイントを示したなす栽培の概略	
閉会挨拶	新潟県農地部農地整備課 課長補佐 宮 島 正 人



＜大平代表理事＞



＜桜井代表理事＞

土地改良区男女共同参画推進に関する事例発表会

去る8月3日、新潟ユニゾンプラザ(新潟市)において、土地改良区男女共同参画推進に関する事例発表会を開催しました。

この事例発表会は、県農地部、県内土地改良区の理事、土地改良関係の女性職員等を対象に、女性の参画と活躍の場となる環境づくりの理解の醸成を目的としており、会場には、約180名が参加しました。

本会の帆刈会長の開会挨拶の後、あきた水土里ネット女性の会の根本会長、とちぎ水土里ネット女性の会の石川会長、とっとり水土里の女性会の壇床会長を講師に招き、各県の女性の会の活動に関して事例を発表していただきました。

その後、新潟食料農業大学の青山浩子氏をコーディネーターとして、男女共同参画の取組みの推進に関するパネルディスカッションを行いました。

最後の質疑応答では、「女性理事の業務を考える際、どのような視点で考えるとよいかアドバイスをいただきたい。」など質問が聞かれ、今後の男女共同参画の推進に向け、非常に参考となる事例発表会となりました。

事例発表



根本 由紀子 会長

〈略歴〉

令和元年12月～ あきた水土里ネット女性の会 会長

令和2年4月～ かつの土地改良区 事務局長

令和4年4月～ 全国水土里ネット女性の会 会長

〈あきた水土里ネット女性の会の概要〉

設立：令和元年12月 会員数：117名

コロナウイルス感染拡大により、オンラインでの活動が中心となる中で、令和5年2月に、設立から初めての対面方式による「あきた水土里ネット女性の会 女性セミナー」を開催し、「今なぜ女性活躍の推進が必要なのか」、「農業農村整備における女性活躍について」といったテーマで講演を行うことができた。

今後は、対面での活動もより活発なることを期待したい。



石川 房代 会長

〈略歴〉

平成19年4月～ 小山用水土地改良区 事務局長

令和2年9月～ とちぎ水土里ネット女性の会 会長

〈とちぎ水土里ネット女性の会の概要〉

設立：令和2年9月 会員数：133名

令和5年1月に、グループワークなどを内容とする会員研修会を開催し、約60名が参加した。「もし、自分が理事長だったら何をしたいか」をテーマに話し合いが行われ、「認知度向上のための出前講座」など様々な意見が出た。将来、会員の中から女性理事の就任するのではないかと感じ取ることができた実りある研修会だった。

また、農業関係団体が参加する農業女性会議に講師として招かれ、講演を行った。土地改良区の認知度の低さに驚いたものの、土地改良区をPRするいい機会となった。



壇床 和子 会長

〈略歴〉

平成15年～平成21年 北条水系土地改良区 参事

令和2年9月～ とっとり水土里の女性会 会長

令和4年2月～ 鳥取県土地改良事業団体連合会 理事

〈とっとり水土里の女性会の概要〉

設立：平成29年7月 会員数：52名

平成30年から現在まで会員間の親睦を深めるため、年4回程度、遊休農地にてサツマイモの栽培や収穫を行っているほか、会員のスキルアップのため、令和4年には、小水力発電発電の現場視察等を行った。

7年間、研修会や現場視察など様々な取り組みを行ってきたが、親睦が深まり、土地改良区間で横の繋がりができたことで、以前よりも意識が高まってきていると実感している。

パネルディスカッション

青 山 氏

女性の会と土地改良区、県土連との連携・協力について、良かった点について教えて欲しい。

根本会長

県土連が事務局となっているので既に協力体制は整っている。9月に開催される男女共同参画推進大会に向け、準備を進めており、非常に助かっている。

石川会長

女性一人で事務を担っているような土地改良区では、会員間の繋がりができたことで、悩みを相談できるようになった。

壇床会長

会員間での繋がりができたことにより、他の土地改良区や県土連に対して、その人を通じて気軽に質問ができるようになった。

青 山 氏

女性の会の会員の意識改革や見られた変化について教えて欲しい。

根本会長

「自分の意志で何かをする」、「グループで何かを作り上げる」といった機会を提供することで、自身の持つ積極的な性格や姿勢がしっかりと出てきている。

石川会長

研修会等で、最初は全く意見の出なかったものが、回を重ねるごとに積極的に意見が出るようになった。

壇床会長

女性職員の研修会の参加への容認など、組織の役員が背中を押してあげるとも大切。

（総 括）

国が掲げる成果目標は、高い山に見えるが、一步踏み出さないと始まらない。土地改良を広く知ってもらうためにも、勉強会を開くことが大切で、その機会を作る意味でも女性の会の存在は大きいのではないかな。

今後、新潟でも女性の会の設立に向けての機運が高まることを期待する。



＜青山浩子氏＞

令和5年度 新潟県経営体育成農地集積促進協議会通常総会

去る8月22日、県土連ビル(新潟市)において、令和5年度新潟県経営体育成農地集積促進協議会通常総会が開催されました。

この協議会は、関係市町村、土地改良区の30団体を構成員とし、農地の集積・集約化を推進するとともに、活力ある農業・農村を実現することを目的に事業を行うもので、総会当日は、会員及びオブザーバーなど計12名が出席しました。

高井副会長の挨拶で開会し、上程された6議案について、全会一致で承認可決され、高井副会長が会長に就任されました。



< 高井会長(新津郷土地改良区理事長) >

議 案

- 第1号議案 令和4年度事業報告について
- 第2号議案 令和4年度収支決算について
- 第3号議案 令和5年度事業計画について
- 第4号議案 令和5年度会費の割当て及び徴収時期について
- 第5号議案 令和5年度収支予算について
- 第6号議案 役員選任について



< 通常総会の様子 >

通常総会後、本会の帆刈会長ならびに新潟県農地部農地整備課の前山課長より基調講演が行われました。

内 容	講 師
令和5年度農地部予算の概要について 本県農業の現状と課題について ～園芸導入・拡大を中心に～	新潟県農地部農地整備課 課 長 前 山 誠
(講演内容) ・「棚田地域へのスマート農業の推進」や「強靱で安心安全な基盤整備の推進」といった内容を盛り込んだ令和5年度農地部当初予算のポイント ・園芸栽培に必要な水田の排水改良を伴う大区画化など、ほ場整備を契機とした園芸導入・拡大に向けた支援について	
本県の農業農村整備事業について	新潟県土地改良事業団体連合会 会 長 帆 刈 謙 治
(講演内容) ・後継者の確保に向けた儲かる農業への体制構築の重要性について ・ほ場の汎用化に伴う園芸作物栽培推進の重要性について	



< 帆刈会長 >



< 前山課長 >

令和5年度 新潟県農村振興技術研修会

去る6月16日、新潟県民会館（新潟市）において、令和5年度新潟県農村振興技術研修会が開催されました。

この研修会は、会員である県や市町村、土地改良区、コンサルタントなどを対象として、農業に関する幅広い情報を提供することで、総合的な技術力の向上を図りながら新潟県の農村振興に寄与することを目的としたもので、約170名が参加しました。

参加者からは、「基幹的農業水利施設の老朽化が進み、施設の機能保全が喫緊の課題となる中、補修工法や維持管理方法について勉強でき、非常にためになった。今後に役立てていきたい。」といった感想もあり、多くの施設を管理する技術者にとって、参考となる研修となりました。

内 容	説 明 者
開会挨拶	NPO法人にいがた水土工支援センター 理事長 齋藤 瑞穂
講演①「農業農村を取り巻く最近の情勢」	全国農村振興技術連盟 委員長 奥田 透
（講演内容）・米の需要減、肉類の需要増など、過去20年間の需要量（1人当たりの食料消費量）の変化について ・基幹的農業水利施設の標準耐用年数超過割合の推移と施設の老朽化によるパイプラインの破裂などの突発事故の発生状況について	
講演②「鋼矢板水路の補修工法「ストパネ工法」開発の取組みについて」	鋼矢板水路腐食対策工法協会 事務局 長崎 文博
（講演内容）・湿潤・高湿環境下や狭隘な水路から橋下など様々な護岸に施工が可能といったストパネ工法の特徴について ・鋼矢板水路の腐食問題の解決に向けた産官学の連携による開発の取組み	
講演③「農業用ポンプの状態監視の取組み」	佐渡地域振興局農林水産振興部 農村整備課長 水島 孝典
（講演内容）・振動測定、潤滑油測定、赤外線応力測定による診断など主な状態監視手法について ・オーバーホールやレーザーアライメント測定といった振動測定を補完する取組みについて	
閉会挨拶	NPO法人にいがた水土工センター 副理事長 中俣 昭雄

令和5年度 県農地部・県土連 意見交換会

去る8月4日、県土連ビル（新潟市）において、令和5年度県農地部・県土連 意見交換会を開催しました。

今回の意見交換会は、災害復旧や換地の業務を円滑に進めるための情報共有等をテーマとして、県農地部から14名、当会から12名の計26名の関係職員が参加しました。

県農地部農地管理課の関川政策企画員の挨拶で開会し、農地部各課の所管業務について説明があった後、3つのグループに分かれ、テーマごとに意見交換を行いました。

参加した職員からは、「意見交換を通じ、効率よく業務を遂行するための改善点を見つけることができたと思う。ここで満足するのではなく、実際に行動に移していきたい。」といった意見が聞かれるなど有意義な意見交換会となりました。

テ ー マ	参 加 者	内 容
今後の災害支援の在り方について	連合会技術部 4名 県農地建設課 5名	・災害時における測量から査定までの対応方法について ・ドローンを活用した高低差測量や写真撮影、スマートフォンを利用した三次元解析について
事業計画策定に向けての進め方について	連合会総務部 1名 連合会技術部 3名 県農地管理課 2名 県農地計画課 2名	・調査委託における業務を円滑に実施するための項目整理について ・事業費単価の算出方法について
地区境界測量における換地業務との連携	連合会換地部 4名 県農地整備課 4名 県農村環境課 1名	・公図の形状と地積測量図の相違による確定測量時の見直し作業の発生について ・地区境界の復元によって、地区外への水路等の構造物施工が発生してしまうケースについて

令和5年度 新潟県土地改良事業団体連合会 技術部研修会ならびに換地部研修会

去る6月22日、県土連ビル(新潟市)において、当会の技術部及び換地部の職員を対象とした令和5年度新潟県土地改良事業団体連合会技術部ならびに換地部研修会を同日開催しました。

技術部研修会では、業務に関する基礎知識や注意点を再確認することを目的に、44名が参加しました。

換地部研修会では、農地中間管理機構関連農地整備事業に関する知識の習得を目的に、24名が参加しました。

参加した職員からは、「基礎的な部分を改めて確認できるいい機会。しっかりと知識を蓄えていきたい。」「農地中間管理機構関連農地整備事業では、土地改良法手続などにおいて他の事業とは異なる点があるため、学んだことをしっかりと活かしていきたい。」といった感想が聞かれ、今後の円滑な業務の遂行に資する有意義な研修会となりました。

技術部研修会の概要

内 容	講 師
開会挨拶	新潟県土地改良事業団体連合会 技術部長 竹内 源人
計画排水量を算定する際の注意点 (上位の排水改良事業がない流域の場合)	新潟県土地改良事業団体連合会 事務局長 小林 由紀雄
(講演内容)・合理式を用いる際の降雨強度に関する注意点等 ・洪水到達時間及び洪水到達時間内平均降雨強度の算定方法	
用水計画にあたっての基礎知識	新潟県土地改良事業団体連合会 技 師 早川 潤
(講演内容)・スプリンクラー灌漑、マイクロ灌漑など畑地での灌漑方法におけるメリット・デメリット ・ほ場単位用水量や純用水量といった計画用水量の構成とそれぞれの用水量の計算方法	
技術士第二試験について	新潟県土地改良事業団体連合会 設計第2課長 松木 準緒
(講演内容)・受験資格や合格率の推移など技術士第二次試験の概要 ・必須科目と選択科目の筆記試験問題対策について	
技術部の業務について	新潟県土地改良事業団体連合会 北蒲原支部 事務所長 山口 正志
(講演内容)・団体営事業等の調査・計画策定、機能診断保全計画策定など現状の主な技術部業務について ・知識・経験・コミュニケーション・取組み姿勢など適切に業務を遂行するにあたり大切なこと	
閉会挨拶	新潟県土地改良事業団体連合会 技術次長 大藤 佳正

換地部研修会の概要

内 容	講 師
開会挨拶	新潟県土地改良事業団体連合会 部 長 本間 英樹
経営体育成基盤整備事業(農地中間管理機構関連型)の採択に向けた地元調整等における留意点	新潟県農地部 農地計画課 土地改良団体係 副参事 佐藤 勉 新潟県農地部 農地計画課 計画係 主 任 佐藤 匠
(講演内容)・事業対象農地や受益面積など判断項目別にした農地中間管理機構関連農地整備事業の採択要件の概要 ・機構関連事業における農地中間管理権の設定や土地改良法手続等に関する注意点	
農業経営基盤強化促進法等の改正に伴う「地域計画」「目標地図」について	新潟県農林水産部 地域農政推進課 地域農業計画係 主 査 岡田 哲史
(講演内容)・人・農地プランの実質化の確認から地域計画の策定・公告までといった地域計画の策定・実行までの流れ ・農地利用最適化活動や水利に関する調整など関係機関の役割の例を示した地域計画策定の推進体制イメージ	
農地中間管理機構関連農地整備事業に係る農地中間管理事業	公益社団法人 新潟県農林公社 主 任 石崎 和之 公益社団法人 新潟県農林公社 主 任 水留 直樹
(講演内容)・農地の出し手、受け手、地域のメリット等を示した農地中間管理事業の概要 ・農地中間管理機構関連農地整備事業に係る農地中間管理権における所有者不明農地の利用権の設定等の留意事項について	
閉会挨拶	新潟県土地改良事業団体連合会 部 長 本間 英樹



< 水留主任 >



< 小林事務局長 >



< 会場の様子 >

連合会日誌

7月 4日 (火)	全国土地改良事業団体連合会 事務責任者会議	オンライン
5日 (水)	北陸四県土地改良事業団体連合会協議会 総会	富山県
11日 (火)	ほ場整備地区園芸産地化現地研修会	魚沼市
12日 (水)	管理運営体制強化委員会・受益農地管理運営委員会	県土連ビル
26日 (水)	全国農業集落排水事業推進協議会 第34回通常総会	東京都
28日 (金)	令和5年度 新潟県園芸振興基本戦略推進検討会	新潟市
8月 3日 (木)	土地改良区女性参画推進に関する事例発表会	新潟市
4日 (金)	令和5年度 県農地部・県土連意見交換会	県土連ビル
22日 (火)	新潟県経営体育成農地集積促進協議会 令和5年度通常総会	県土連ビル
23日 (水)	令和4年度「食料・農業・農村白書」「食育白書」北陸ブロック説明会	石川県 (オンライン同時開催)
29日(火)~9月1日(金)	第72回 農業農村工学会大会講演会	愛媛県 (オンライン同時開催)
9月 13日 (水)	都道府県土地改良事業団体連合会 事務責任者会議	オンライン
27日(水)~28日(木)	令和5年度「水土里ネット男女共同参画推進大会 in Kazuno」	秋田県
28日(木)~29日(金)	令和5年度 土地改良施設管理事業推進協議会研究会	福島県

表紙写真紹介



たてこし 田んぼアート (新潟県村上市熊登集落内)

たてこし田んぼアートは、舘腰地域まちづくり協議会の主催で開催され、今年で4回目を迎えます。

過去には、パンダやしろくまなど動物をメインに田んぼアートが描かれており、今回は、今年の干支であるウサギがほ場を彩ります。

田植えの際には、地域の大人からの子どもまで参加し、一丸となって集落を盛り上げます。



未来の「水」「土」「里」を創造する

